

平成 22 年度消化器科後期研修プログラム

1 . プログラムの目標

- ・ 日本消化器病学会専門医研修カリキュラムにのっとり、消化器内科専門医として必要とされる知識・技能・診療能力を習得する。
- ・ プログラム終了後に、日本内科学会認定医・日本消化器病学会認定医・日本消化器内視鏡学会認定医・日本肝臓学会認定医の、受験資格を得る。

2 . 指導スタッフ

- ・ 研修責任者：寺田光宏（日本内科学会認定指導医、日本消化器病学会認定指導医、日本消化器内視鏡学会認定指導医、日本肝臓学会認定指導医）
- ・ 共同指導者：平井信行、西田泰之、國谷 等、齋藤奈津子、河合健吾

3 . プログラムへの参加資格

2 年間の初期研修を修了している者。

4 . プログラムの修了年限

- ・ 本プログラムの修了年限は 3 年間とする。希望により、2 年間までの延長が可能である。
- ・ 終了後、当院消化器科への就職も可能である。また、金沢大学消化器内科・富山大学消化器内科（第 3 内科）・大学院等での臨床研究・基礎研究に従事することも推奨する。

5 . 研修カリキュラム

- ・ 消化器内科医として、外来及び入院患者の診療にあたり、検査・診断・治療の技術を習得する。

・ 内容

：一般事項

A. 基本的検査、処置

検査：胸部単純 X 線、腹部単純 X 線、直腸指診

救急一般処置

輸血、水・電解質管理、栄養管理：高カロリー輸液、経管栄養

B . 一般的処置

胃チューブ、イレウス管挿入

浣腸、高圧浣腸

腹腔穿刺と排液

C . 薬物療法

: 診断・治療手技 (以下の診断・治療手技を習得します。)

A. 血液、尿、糞便検査の意義を理解する

B. 消化管

X線検査：胃食道造影、低緊張十二指腸造影、小腸造影、注腸内視鏡検査 (生検、色素法、超音波内視鏡を含む)：食道、胃、十二指腸、小腸、大腸

胃液検査

C . 肝・胆・膵・腹腔

X線検査：胆道造影 (経静脈、直接胆道穿刺)

内視鏡的逆行性胆管膵管造影、血管造影

画像診断：超音波、CT, MRI, RI

内視鏡検査 (生検、超音波内視鏡を含む)：胆道鏡、腹腔鏡検査
肝生検

腹水の一般検査及び細胞診

D . 治療手技

消化管：S - Bチューブ、食道静脈瘤硬化療法、食道静脈瘤結紮術、内視鏡的粘膜切除術(EMR,ESD)、内視鏡的止血術、胃ろう造設術

肝・胆・膵：経皮的ドレナージ、内視鏡的治療手技及びドレナージ (ENBD,EPBD,EST,ステント)、経皮経肝的局所療法(PEI,RF)、肝動脈塞栓療法、バルーン下逆行性経静脈的塞栓術、血漿交換、放射線療法、TIPS

: 疾患 (以下の全ての疾患を経験します。)

A. 食道：食道炎、食道潰瘍、バレット潰瘍、アカラシア、食道癌、食道静脈瘤、食道裂孔ヘルニア、等

B . 胃・十二指腸：胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、胃癌以外の悪性腫瘍、胃良性腫瘍、十二指腸腫瘍、タンパク漏出性胃腸症、急性胃拡張、等

C . 腸：腸炎、虫垂炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、腸結核、大腸ポリープ、腸閉塞、憩室炎、大腸癌、小腸腫瘍、過敏性腸症候群、虚血性大腸炎、等

D . 肛門：痔核、痔ろう、裂肛

- E . 肝：急性肝炎、慢性肝炎、劇症肝炎、自己免疫性肝炎、肝硬変
原発性胆汁性肝硬変、薬剤性肝障害、アルコール性肝障害、
脂肪肝、非アルコール性脂肪性肝炎、肝癌、肝膿瘍、
肝癌以外の肝悪性腫瘍、肝良性腫瘍、特発性門脈圧亢進症、
肝内結石症、Budd-Chiari 症候群、肝外門脈閉塞症、等
- F . 胆道疾患：胆石症、胆嚢炎・胆管炎、胆道腫瘍、膵・胆管合流異
常、原発性硬化性胆管炎、等
- G . 膵：急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、膵癌、膵内分泌腫瘍、
膵嚢胞、等
- H . 腹腔・腹壁：急性腹膜炎、癌性腹膜炎、横隔膜下膿瘍、ヘルニア
等

6 . 症例検討、学会発表など

- ・ 毎週、木曜日に看護師、薬剤師もまじえた症例検討会を行っています。
- ・ 1回 / 月、外科・放射線科・病理診断科との合同症例検討会を行っています。
- ・ 1回 / 2ヶ月、看護師、薬剤師、栄養士を含め、肝臓病教室を主催しており、
チーム医療を実践しています。
- ・ 消化器科全体として、年10回前後の学会発表を行っており、日本全国の学
会や研究会への参加も積極的に行うことができますし、学会発表や論文作成
の訓練にもなります。
- ・ 当科は、富山リバーカンファレンス、呉西地区消化器疾患談話会、呉西肝胆
膵フォーラム等の勉強会を主導していますが、これらの会に参加し他施設の
消化器科医との **discussion** を積極的に行うことができます。

7 . 最後に研修責任者よりのメッセージ

一人前の消化器内科医になるには、なんといっても、若いうちに少しでも多
くの症例を経験することが極めて重要です。その点、当院の消化器科は、富山
県内はもとより北陸でも有数の症例数をほこり、またスタッフも臓器別に充実
しています。当科で後期研修を行えば、消化器内科医として必要な最新の技能・
知識・診断治療能力は全て習得可能です。熱意のある多数の方を待っています。

消化器科（日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定施設、日本肝臓学会認定施設）

消化器科の医師は6名で、月曜から金曜までの毎日、午前は、初診1名、再診1名、内視鏡3名、午後は諸検査を全員で分担して対応しています。午後17時以降は、1年365日、オンコール体制を敷いて、緊急の患者さんに対処しています。

外来診療は、毎日20-30人の新患、40-50人の再来患者さんが来院します。当科では、その日のうちに、内視鏡検査・腹部超音波検査が可能で、また緊急時にはCTなども施行し、できるだけ迅速に診断をつけ治療方針を決定できるような体制をとっています。また、開業医や、他病院の先生方との病診 病病連携にも力を入れています。

入院診療は、消化器専門病棟で対応していますが、常時50-60人の患者さんが入院しており、他病棟にも常に消化器科の患者さんが入院している状況となっています。

検査は、午前中は上部（胃ファイバースコープは年間7000例）・下部（原則シグモイドファイバー）内視鏡、午後は大腸ファイバー（年間2000例）、内視鏡的逆行性胆管膵管造影や、治療内視鏡（内視鏡的止血術、内視鏡的粘膜切除術、食道静脈瘤硬化療法・結紮術、内視鏡的胃ろう造設術、内視鏡的胆道ドレナージ・ステント留置・総胆管結石除去術、アルゴンプラズマ焼却術など）、肝生検や肝癌に対する経皮経肝的局所療法（ラジオ波熱焼灼療法、エタノール局注療法）など行っており、消化器内科医として必要な手技は全て習得が可能です。

以下に、各臓器ごとの当科の特徴を（特に、力を入れていることを中心に）述べます。

1 食道：

早期癌に対しては、内視鏡治療を積極的に行っています。また、進行癌に対しては、放射線化学療法を放射線科とタイアップして施行しています。

2 胃・十二指腸：

早期胃癌に対しては、今注目されている、内視鏡的粘膜切開術を早期より導入、国立がんセンターで研修した専門医が施行し、県内でも有数の症例数をほこっています。

胃・十二指腸潰瘍に対しては、ヘリコバクターピロリ除菌療法を行い、除菌確認診断に不可欠な尿素呼気試験は短時間で結果が判明します。

3 小腸：

小腸疾患に対しては、今後有望視されている、カプセル内視鏡に注目してお

り、保険診療が可能になりしだい導入予定です。

4 大腸：

早期癌に対しては、内視鏡的粘膜切除術を積極的に施行。

潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患の症例も多く、顆粒球・リンパ球除去療法なども積極的に導入しています。

5 肝臓：

当科は特に、肝疾患に力を入れており、患者さんの数も県内で有数を誇っています。また、1回/2ヶ月の頻度で、第2土曜日に肝疾患の患者さんやご家族に対して、肝臓病教室を開催し、看護師・薬剤師・栄養士と協力し、患者教育にも力を入れ、現代の医療にかかせないチーム医療を実践しています。

B・C型ウイルス肝炎に対しては、最新の抗ウイルス療法を多数の患者さんに導入し良い治療成績をあげています。

肝臓癌に対しては、経皮経肝的局所療法（ラジオ波熱焼灼療法、エタノール局注療法）、肝動脈塞栓療法（放射線科とタイアップ）、リザーバー動注療法（胸部外科とタイアップ）などにて集学的な治療を他科と協力して行い、優れた治療成績をあげています。

6 胆道：

内視鏡的胆道ドレナージ・ステント留置・総胆管結石除去術などの、内視鏡治療を積極的に行っています。

7 膵臓：

重症膵炎に対しては、放射線科と協力し持続動注療法、ICUにて体外濾過療法などを積極的に施行しています。

8 消化器癌に対する化学療法：

当院は、院内のがんセンターを核に、全科的に癌化学療法に力を入れていません。当科では、食道癌・胃癌・膵臓癌・胆管癌を中心に、最新のレジメンを導入し、また全国治験にも積極的に参加し、大学病院ともタイアップし、多数例の患者さんに化学療法を導入し、優れた治療成績をあげています。

以上、消化器科は、富山県内はもとより北陸でも有数の症例数をほこり、またスタッフも臓器別に充実しており、当科で後期研修を行えば、消化器内科医として必要な技能・知識・診断治療能力は全て習得可能です。熱意のある多数の方を待っています。

- ・寺田光宏（日本内科学会専門医・指導医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本肝臓学会指導医）
- ・平井信行（日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会指導医）
- ・西田泰之（日本内科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医）
- ・國谷 等
- ・齋藤奈津子（日本内科学会認定医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会認定医、日本肝臓学会専門医）
- ・河合健吾（日本内科学会認定医、日本消化器病学会認定医）